オリジナル設計㈱

施設本部東日本施設部施設二課

千葉 有紀さん

大学院応用生命科学研究科修了
入社3年目

下水道の設計を極めたい

担当した施設の完成が楽しみ

途上国の下水道が印象に

上下水道関連を主とする建設コンサルタントに入社した。もともと大学院で下水処理を研究しており、水処理の仕事に進もうと決めていた。コンサルタント、メーカーなどの業種は決めていなかったが、「説明会で話を聞いて良さそうと感じたのが決め手です」と入社動機を話す。

大学院に進んだのは研究をとことんやりたかったから。大学で卒論を期間内にまとめたが、時間があればもっといい成果を出せたと後悔が残った。大学院に進み研究で途上国を訪問、現地の下水処理を見学したことが印象に残っている。「処理が十分でない汚水を放流した河川で生活しているのを見て、生活の基盤となる下水道の重要性を感じました」との体験が今の仕事につながっている。

基礎から土木を学ぶ

入社して施設本部に配属された。同部は下水処理場、ポンプ場の設計を業務としている。入社して最初の仕事は下水処理場の耐震化に関わる業務。最初は用語が分からなかったが、「上司がていねいに教えてくれて、一つ一つ身につけていこうと思いました」と決意。上司から指示を受けて仕事をこなしていく日が続いた。ある時、新設のポンプ場の設計の一部を担当することに。これまでは既存の施設だけだったが、新しい施設は初めて。心が踊った。「担当した部分は少しでしたが、完成したら感動すると思います」と心待ちにしている。

最近はストックマネジメントの仕事が増えている。施設を適切に管理するための計画を作成するということで土木、建築、機械、電気の分野をそれぞれで担当する。「土木担当ということになりましたが、専門でなく最初はイメージが浮かびませんでした」と戸惑った。ここでも入社した時のようにあせらず一つ一つ身につけていこうと思った。

仕事のやりがいはお客さまに成果品をわたすことだと言う。「仕事を進める過程でお客さまと様々なやりとりがあり、それを乗り越えて完成させることに魅力を感じています」と言う。お客さまからの感謝の言葉が印象に残っているそうだ。

快適な職場環境で仕事

今は技術力を身につけることを第一に考えている。「下水道の設計は奥が深く、将来も続けていくことで極められるようになりたいです」と話す。

職場は仕事しやすいようにノートPC、iPhoneが支給され、フリーアドレス、テレワーク環境の整備が進み様々な場所で仕事ができるようになっている。「Linenworksを導入しグループトークやビデオ通話を活用しています。部署内外問わず、すぐに連絡がとれ、業務効率向上、労働時間の短縮に役立っています」という。また、業界トップクラスの労働環境を目指したワークライフバランスの取り組みを行っており、「自分の生活にあった仕事ができています」と満足している。

フリーアドレス、テレワーク環境の整備が進んでいる